

ソニーのCSR報告と環境活動

環境報告書からCSRレポートへ

環境保全活動
報告書1994



- ・ 基本方針
- ・ ソニー地球環境委員会

環境保全活動
報告書1997



- ・ 環境パフォーマンスデータ
- ・ 中期行動計画の開示

環境保全活動
報告書1999



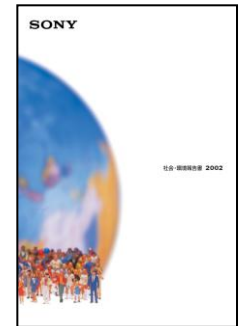
- ・ 環境コスト

環境報告書
2001



- ・ 第3者検証
- ・ 環境負荷の全体像
- ・ 連結の環境データ
- ・ 環境費用対効果

社会・環境報告書
2002



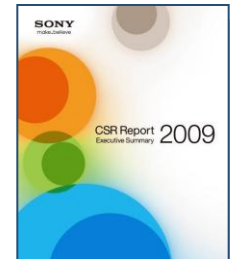
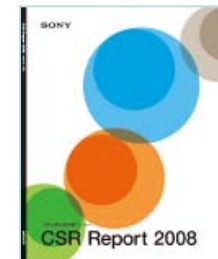
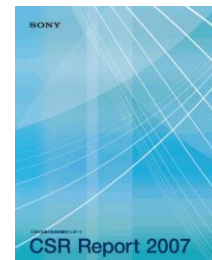
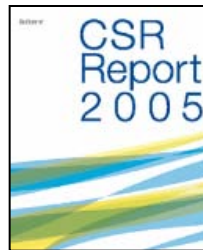
- ・ 社会性活動
- ・ Web連携

CSRレポート2003



- ・ コーポレートガバナンス
- ・ コンプライアンス
- ・ アニュアルレポート連携

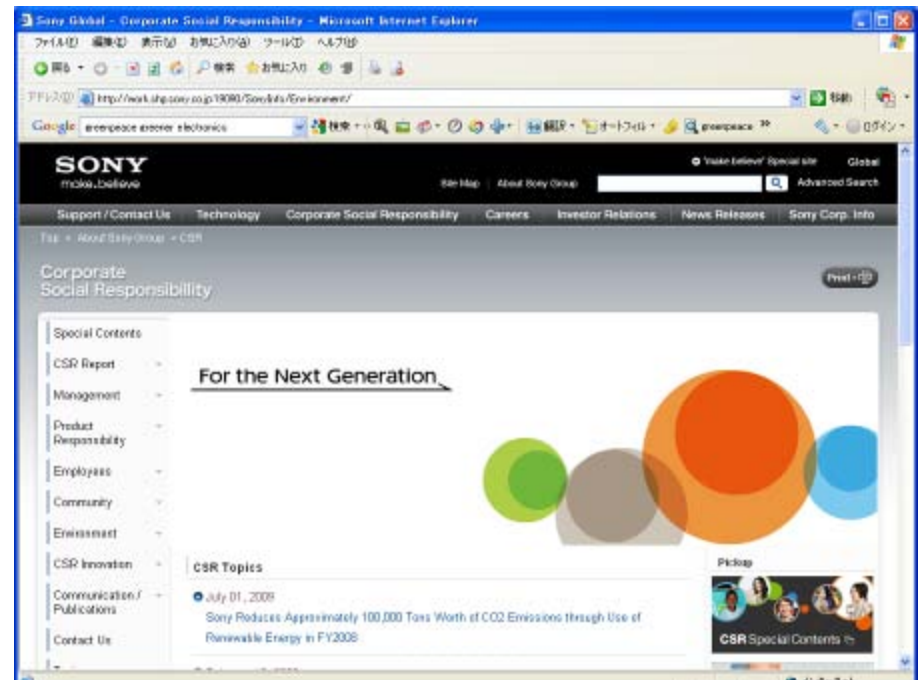
CSRレポート2004～2009



CSRレポート2010



- ソニーのCSR活動の概要をまとめた冊子「CSRレポート2010 エグゼクティブ・サマリー」
- Webサイトには、詳細で網羅的な情報を掲載



伝統的CSRから戦略的CSRへ

Responsibility

Competitiveness

Opportunity



ソニーグループ環境活動の沿革



1990年

トップマネジメントより環境保全に関する指針発行

1993年

ソニー環境基本方針、環境行動計画を制定

1996年

ソニー環境行動計画を更新、「Green Management 2000」制定

1998年

ソニー環境行動計画を全世界で一本化、「Green Management 2002」制定

2000年

ソニー環境ビジョンを制定(2003年11月にソニーグループ環境ビジョンに改訂)

2001年

ソニー環境行動計画を改訂し、「Green Management 2005」制定

2002年

「グリーンパートナー環境品質認定制度導入

2006年

環境中期目標「Green Management 2010」制定

WWFクライメート・セイバーズ・プログラムに参加

ISO14001グローバル統合認証

2010年

環境計画「Road to Zero」策定

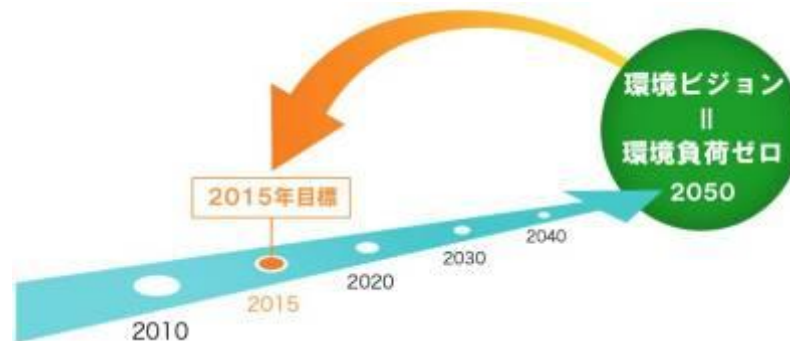
ソニーグループ環境ビジョン改訂、

「Green Management 2015」制定



ソニーグループ 新・環境計画 “Road to Zero”

自らの事業活動および製品のライフサイクルを通して、
環境負荷をゼロにすることを目指します。



気候変動に関するパートナーシップ

WWF クライメート・セイバーズ・プログラムへの参加



with James Leape,
Director General of WWF International
at Climate Savers Tokyo Summit (2008/02)



碳减排先锋
Defensores do Clima
クライメート・セイバーズ
Climate Savers

2006年7月 協定締結

- ・ ソニーグループ全体の事業所から排出されるCO₂換算温室効果ガスの絶対量を、2010年度までに2000年度比で7%削減を目指す
- ・ 主なソニー製品の年間消費電力量を削減することにより、製品の使用時のCO₂排出量を削減

2008年2月 「東京宣言」

- ・ 共同で「クライメート・セイバーズ東京サミット」をソニー本社で開催
- ・ ソニーなど12社が「東京宣言」に署名し、低炭素社会の実現に向けたさらなる活動への決意を表明

2009年11月 更新目標に合意

- ・ ソニーグループ全体の事業所から排出されるCO₂換算温室効果ガスの絶対量を、2015年度までに2000年度比で30%削減を目指す
- ・ 製品の消費電力を2015年度までに2008年度比で一台当たり30%削減を目指す

製造事業所の使用エネルギー削減への取り組み

製造事業所を中心に「建物省エネ診断」を行い、
中長期削減施策の提言を実施



ソニーグループの
各製造事業所



現地調査、ヒアリング



省エネ項目	省エネ効果 (削減)		削減率 (削減)	
	削減①	削減②	削減③	削減④
1. 空調設備	ヒートポンプ導入 (空調専用設備設置)	省エネ型空調機 (CO2削減)	ポンプモーター 表効率アップ	省エネ空調機 省エネ制御
2. 照明	省エネ照明器具による ファンクション	LED照明器具	省エネ照明器具	省エネ照明器具
3. 空調機	省エネ運転方法 (空調機稼働率の削減)	省エネ運転方法 (空調機稼働率の削減)	省エネ運転方法 (空調機稼働率の削減)	省エネ運転方法 (空調機稼働率の削減)
4. PAC工機	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)
5. 生産管理システム	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)
6. 高圧エア設備	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)
7. 照明器具	LED照明器具	LED照明器具	LED照明器具	LED照明器具
8. 生産設備	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)
9. 空調機	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)
10. 行先エネルギー	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)	省エネ運転方法 (省エネ運転方法)

中長期施策案の提言

最新技術を海外へも横展開



オフィスビルの省エネルギー



工場で培った省エネ技術を、新しい本社ビルにも応用。
CO₂を約48%削減した最先端の環境配慮型オフィスです。

下水処理水を再利用し、セントアイランドの稼働へ

1階から5階までのフロアに、再生水を利用したトイレや洗面所を設置し、節水効果を実現。また、再生水は、空調機の冷却水としても活用し、省エネ効果をさらに高めています。また、再生水は、空調機の冷却水としても活用し、省エネ効果をさらに高めています。



年間約1万トンのCO₂を削減。これもさまざまな省エネ技術の活用による効果。また、再生水は、空調機の冷却水としても活用し、省エネ効果をさらに高めています。



ソニーシティ空調用冷却水システム



「ダブルスキン」が採用された外壁



東京都下水道局 芝浦水再生センター

**ソニー本社ビル：
年間CO₂排出量
約50%削減
(一般オフィスビル比)**



ソニー・エレクトロニクス新
本社ビル、ソニー・ピク
チャーズエンタテインメント
のスタジオ内オフィスについ
ても、米国グリーンビルディ
ング審議会からLEED®ゴー
ルド認証を取得

グリーン電力の導入

2009年度はグリーン電力の導入により、
グローバルで年間約12.8万トンの温室効果ガスを削減

欧州

すべての製造事業所と非製造事業所(100人以上)で
100%再生可能エネルギー使用を達成。
(約1億7,000万kWh相当/直接調達及び証書購入)

日本

グリーン電力証書契約量
年間7,104万kWh(2010年3月現在)

米国

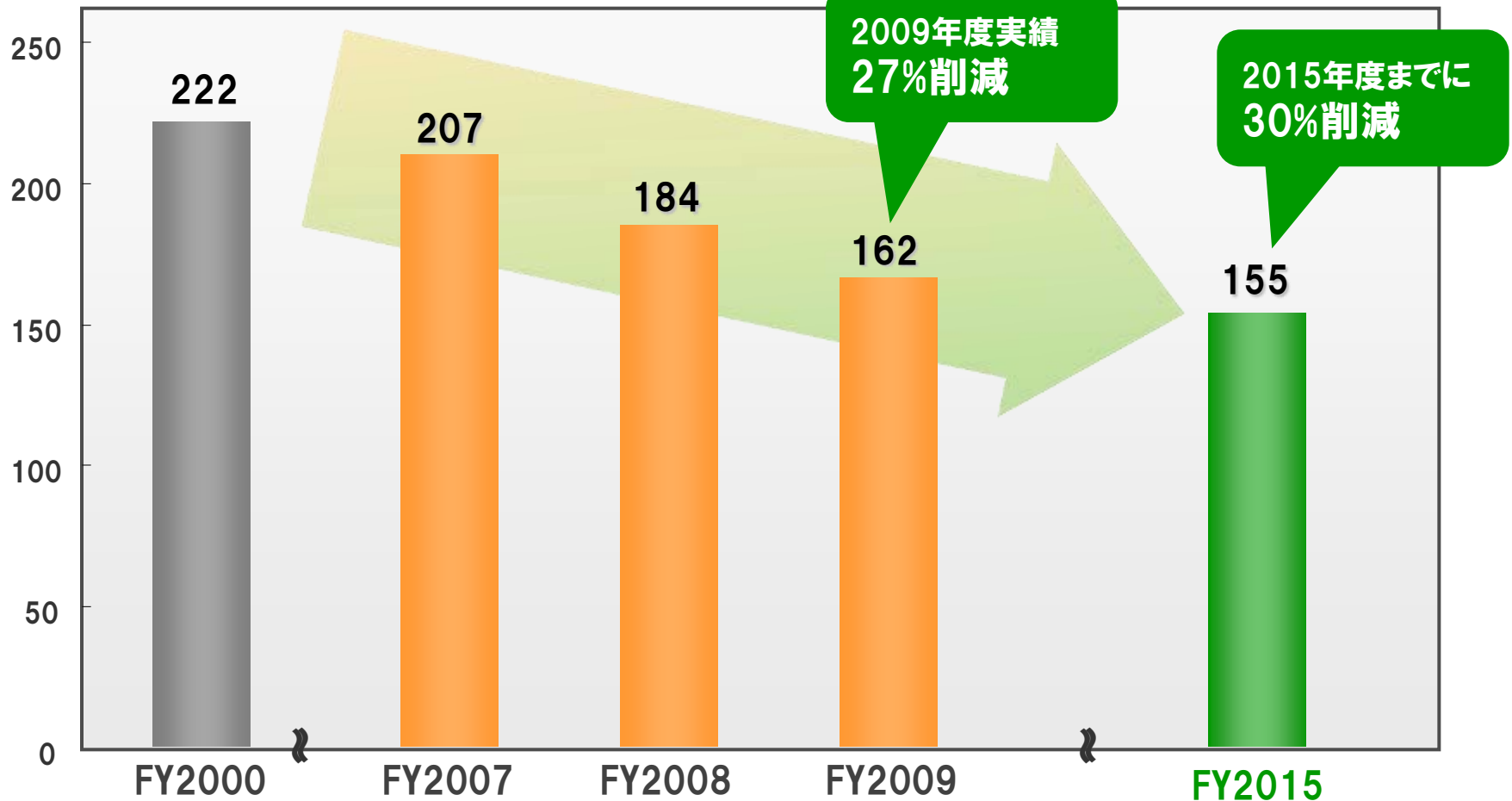
グリーン電力証書購入量
年間1億1,090万kWh

グリーン電力=「再生可能エネルギー」
再生可能エネルギー導入による温室効果ガス削減に取り組んでいます

事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

2015年度までに2000年度比で絶対量の30%を削減

(万t-CO₂)



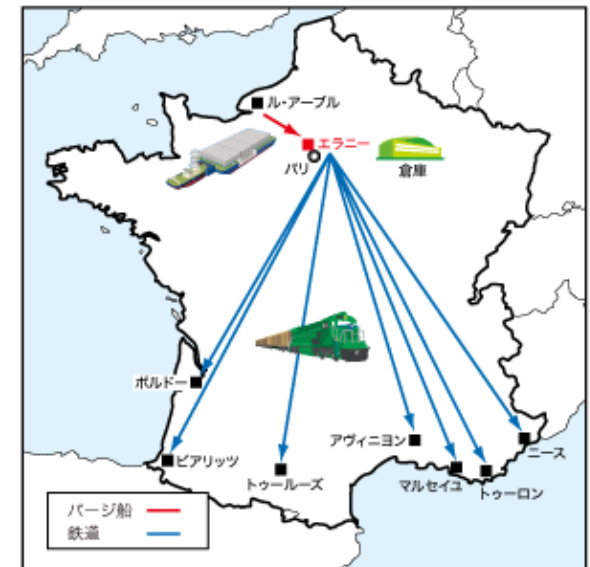
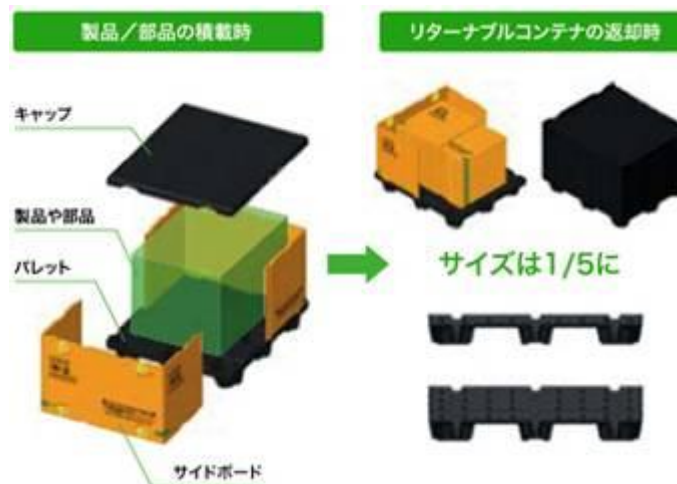
物流／サプライチェーンの温室効果ガス排出量

● 物流

- 日本国内、米国、欧州域内、および国際間の製品輸送、国内での主要関連会社の事業活動にともなう輸送による2009年度のCO2排出量の総量：約55万トン
- 主な施策：
 - 製品包装の縮小による輸送効率改善
 - モーダルシフトの推進
 - リターナブル・コンテナの導入地域の拡大



包装材使用量と包装体積を削減し、
輸送効率も向上



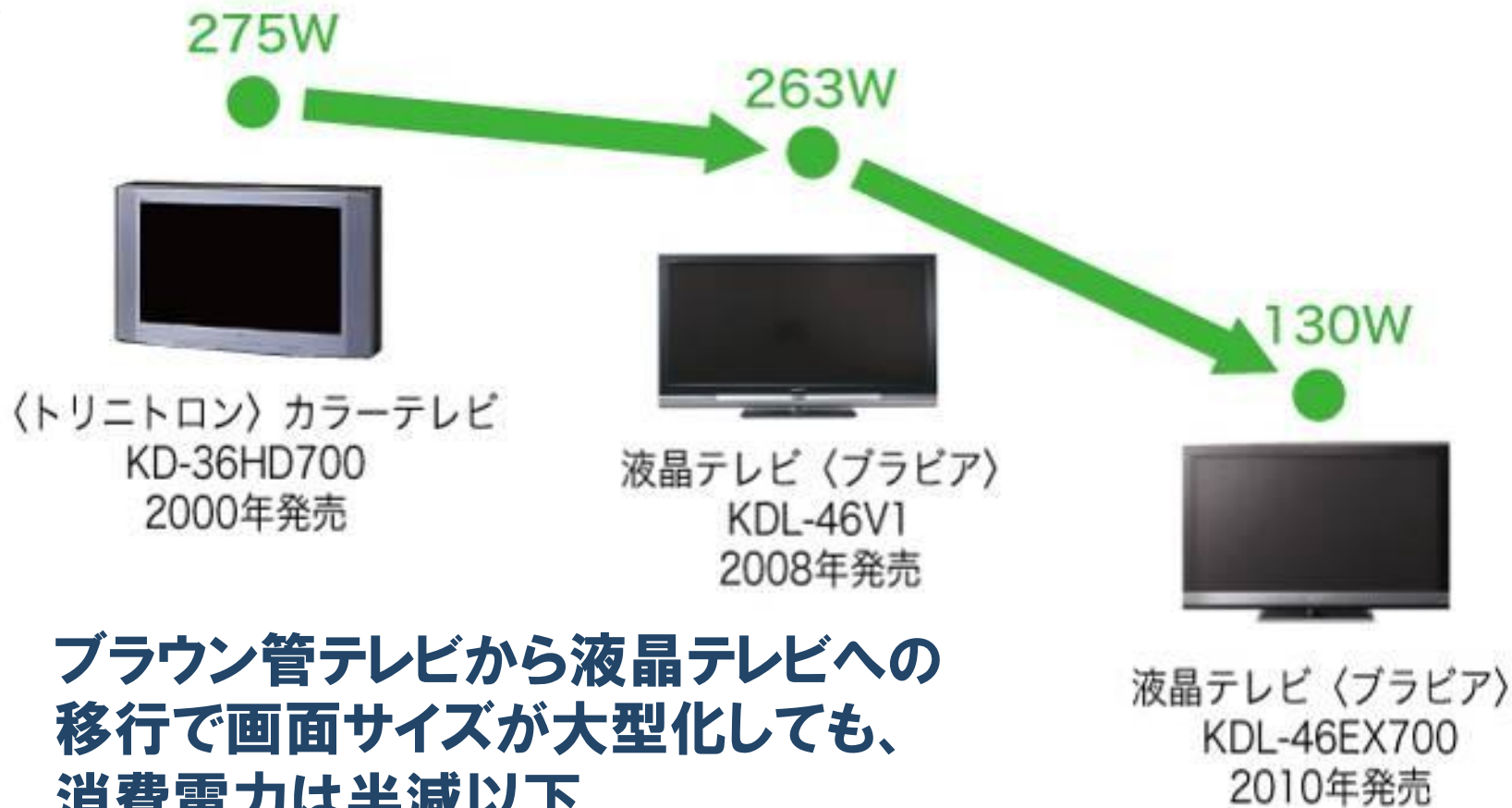
● サプライチェーン

- 温室効果ガス排出量の把握のため、Carbon Disclosure Project の サプライチェーン・プログラムへの参加、EICCのパイロットプログラムへの参加



テレビの消費電力の推移

消費電力



ブラウン管テレビから液晶テレビへの移行で画面サイズが大型化しても、消費電力は半減以下

※定格電力で比較

環境技術の開発 色素増感太陽電池

- 従来のシリコン系太陽電池と異なり、色素が吸収した光のエネルギーを電気エネルギーに変換する太陽電池
- 2010年8月の測定では試作モジュールの光電変換効率は世界最高の9.5% (ソニー調べ)

色素増感太陽電池のメリット

- ・ 生産時のコスト／環境負荷の低減
- ・ デザイン性



“Hana-Akari”
インテリア照明のコンセプトモデル



色素増感太陽電池／リチウムイオン電池ハイブリッドチャージャー試作機による“ウォークマン”再生デモ(2009年12月)



イノベーション

オリビン型リン酸鉄リチウムを用いたリチウムイオン二次電池の開発

オリビン型リン酸鉄リチウムを正極材料に用いたリチウムイオン二次電池の蓄電モジュール(容量 1.2kWh級)を開発、2010年6月よりサンプル出荷を開始

用途:
データサーバー用バックアップ電源や携帯電話の無線基地局用バックアップ電源などの定置型電源用途



蓄電モジュールの主な特長

- 「高い拡張性」
モジュール同士の直列や並列の複数接続が容易で、用途にあわせて電圧や容量のカスタマイズが可能
- 「高い安全性能」
熱安定性、保存特性に優れたオリビン型リン酸鉄リチウムイオン二次電池を採用したほか、蓄電モジュール内の異常を検知する自己診断機能を搭載
- 「低環境負荷」
長寿命であり、長く繰り返し使えて環境への負荷を軽減
レアメタルではなく、資源的に豊富と言われる鉄(リン酸鉄リチウム)を使用

イノベーション デジタルシネマシステムによるCO2削減貢献

デジタルシネマシステムにより、約40%のCO2削減

- 完全パッケージ化、配給、上映、廃棄のプロセスを対象
- デジタルシネマ対応の映画館へはHDDに映画を記録して配給
 - フィルムの現像工程が不要
 - フィルム、水、化学薬品が不要に
- 2時間映画で6巻の上映用ポジフィルム→HDD1台となり、輸送効率が向上

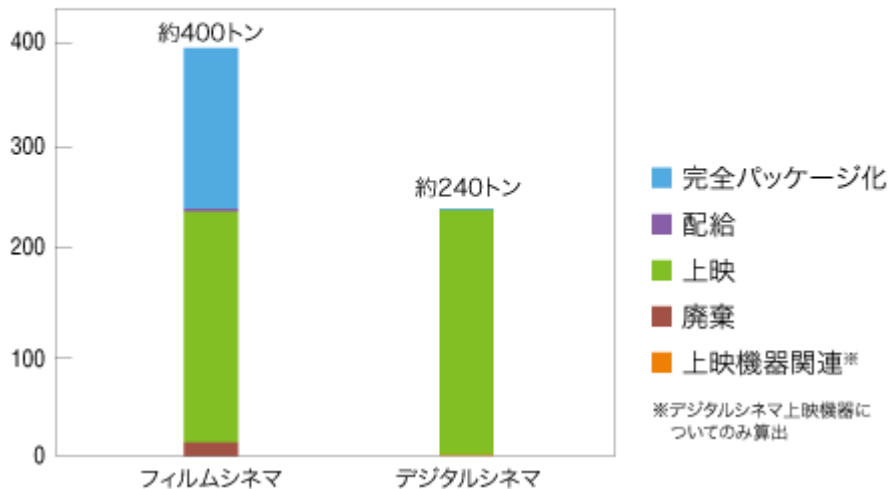


HDCAM-SRカムコーダー SRW-9000

ライフサイクルステージごとの排出量比較

(2時間の映画を完全パッケージ化し、日本全国の300カ所の映画館への配給、上映、廃棄する前提で比較した場合)

排出量(トン-CO₂)



フィルムシネマとデジタルシネマのライフサイクルの比較



For the Next Generation

SONY
make.believe

